

人口と世帯

	昭和40年 (2月末)	昭和45年 (2月末)	昭和50年 (2月末)
人口	2,923人	2,428人	2,106人
男子	3,013人	2,438人	2,157人
女子	5,936人	4,866人	4,263人
世帯	1,280世帯	1,193世帯	1,111世帯

転入した人 16人
転出した人 5人 (前月比12人増)



○妊婦健康相談
とき・四月九日 十三時～十五時
ところ・肱川町公民館

○乳児健康相談
とき・四月二十三日 十三時～十五時
ところ・肱川町公民館

○人権法律相談所開設
とき・三月十七日 十時～十五時
ところ・肱川町公民館

○不燃物収集
とき・三月二十八日
ところ・従来の場所へ。
よく荷つくりをして出すこと。



愛媛県議会議員選挙は四月十三日。
肱川町議会議員選挙は四月二十七日。

50年度予算

6億6,200万円のゆくえ

「大切に」運動で心の醸成

三月十日から三月十五日までの六日間にかつて開かれた町議会で、五十年年度の予算が決まりました。この予算は、町の一年間の政治を数字にあらわしたもので、町がこれからどのような方向にすすむか、という重要なことでもあります。あなたの部落の願いや、あなた自身の期待がどこまで行政に反映されているか、予算のあらましをみながら町の一年間の進む方向について考えてみましょう。

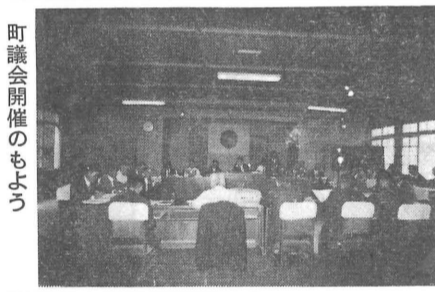
施策の基本的な考え方は、昨年引き続き「物の開発から心の開発」に置き、利己的な考え方に起因する社会悪が、住民生活のあらゆるところに障害を及ぼしていることを指摘し、「人を、そして自然を大切にすることを指し、人を、また、その他法律等で定められた義務的経費等の心」の必要性を説いています。予算は、当初重点主義をとり、六億六、二〇〇万円と前年比三〇％増と他町村に比べ高率の伸びとなっています。これは、五十年年度において庁舎建設を計画している中で、特別な財政支出があり、一般財源の効率的配分を要するものを取り除き、制約されることとなります。

庁舎建設に着手

（総務）
地方自治体の人件費については、最近社会問題として町村において非常に高いべ

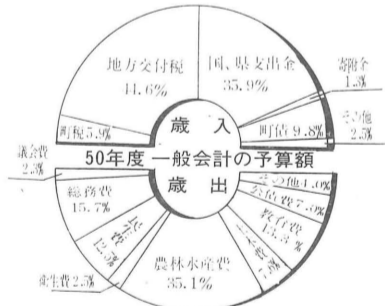
新規及び特別な事業

① 庁舎建設資金 積立金(建設費は補正)	1,500万円
② 老人医療費の支給	1,320万円
③ 地方改善事業 敷水線舗装及び嘉城農道新設	2,909万円
④ 成人病の予防対策 40才、45才、55才の誕生日検診(132人)	32万6千円
⑤ くり選果所建設費助成(15%を5年分割) 初年度	168万6千円
⑥ まつくい虫の共同防除(負担金)	38万3千円
⑦ 記念造林補助 林業後継者の結婚記念(1人35,000円)	10万5千円
⑧ 農業構造改善事業(3年度) 大谷地区 宇和川地区	3,911万2千円 5,166万5千円
⑨ 林業構造改善事業 基盤整備 資本整備	2,097万8千円 666万円
⑩ 山村地域特別対策事業(1年度) 農事放牧施設(全町)	1,850万円
⑪ 国土調査 岩谷第1地区(敷水)	2,283万4千円
⑫ 町道舗装、改良 大平～森線 弁天～テフガハザ線 正山線 滝山～白石線 ダム堰堤上～鹿野川園地線改良	2,372万円 955万円
⑬ 農道新設 地すべり関連農道(菟尾線)新設	3,572万2千円
⑭ 町誌編さん 印刷発注	248万6千円
⑮ 岩谷小プール新設	1,335万円
⑯ 地域振興事業補助 (当初予算にないものに対し)	300万円



町議会開催の様子

「大切に」運動の大きな町においては、従来より人員の増加を極力抑え、給与改定においても特別処置は講じていません。しかし、基準が低いからそれでよいという考え方はなく、公務員の給与として適正に決定されています。庁舎の建設については、現在の危険度の高い庁舎を本年度中に改築し、機能を充実し、行政サービスの向上を図るため、基金積立(一、五〇〇万円)と、計画費(四九三万円)を計上し、建築費は補正することにしてあります。行政と住民をむすぶ広報、広聴活動(七十一万五千円)、また、生活環境をよくするための実践活動(七十一万五千円)及び安全施設である防犯灯、カーブミラー(一二三万六千円)の充実



暮らしよい町に

（福祉）
福祉は、不安のない生活を送るための重要な要素です。町では、高齢者、障害者、児童、青少年に対する支援策を充実させています。老人医療費補助(七十一万五千円)、児童手当(七十一万五千円)、青少年相談(七十一万五千円)など、生活困窮者に対する支援策を充実させています。また、子育て支援策として、児童手当(七十一万五千円)や児童養育施設(七十一万五千円)の整備を行っています。

栄えある町に

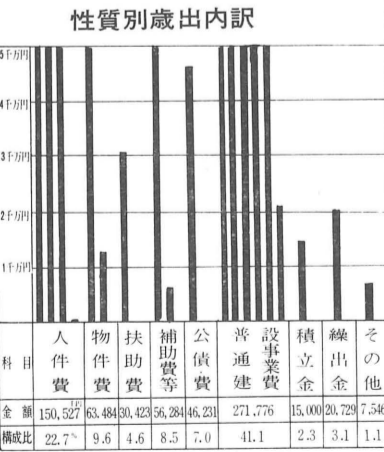
（農林）
農林業は、町を豊かにする基盤です。町では、農林業の振興策を推進しています。農業構造改善事業(一億八千九百九十九万五千円)、林業構造改善事業(一億八千九百九十九万五千円)など、農林業の振興策を推進しています。また、農林業の振興策として、農業構造改善事業(一億八千九百九十九万五千円)や林業構造改善事業(一億八千九百九十九万五千円)の整備を行っています。

正しく育つ町に

（教育）
町民相互の連帯意識を高め、新しい郷土感を育てるために、各世代の特性と実情に応じた教育を創造するために次のことを実践します。まず、四国八十八カ所めぐりを併せた移動教室を高齢者対象に実施。(二四万円) 幼児巡回図書館、少年団、子供会のリーダー育成、サークル活動の育成を行うため図書購入(五〇万円) 茶の湯セット購入(六万五千円)等を行います。また、社会体育活動を活発にするため、四十九年度に完成する町民運動場の備品購入(四三万八千円)も行います。

明るく整った町に

（消防）
過疎による火災の発生を防止するため、消防団員の研修や防具の整備を行います。また、防火意識の啓発を図ります。天災被害時の防災対策本部の設置も考えています。



（災害復旧関係）
学校プールは、岩谷小の新設(一、三三三万円)、予子林小の改良(一〇〇万円)を行います。学校教育は、小学校、中学校を併せて二、五一〇万三千円が見込まれています。六カ所で三、四四三万三千円となっています。以上のとおり五十年年度の予算のあらましを述べましたが、その財源は、国庫支出金二億三、八三二万円、町地方債六、四九〇万円、町税等三、九四六万七千円、国庫からの地方交付金二億四、九〇〇万円、その他六三九万八千円となっています。



